

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	整形外科科学講座(佐倉),その歴史と展望
別タイトル	Department of Orthopaedic Surgery (Sakura Medical Center): It's history and future prospects
作成者(著者)	中川, 晃一
公開者	東邦大学医学会
発行日	2020.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 67(1). p.35 36.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2019 057
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD78898131

教室(診療科)紹介(116)

整形外科学講座(佐倉), その歴史と展望

整形外科学講座(佐倉)

教授：中川晃一
 准教授：中島 新
 講師：園部正人
 高橋 宏
 医局長：園部正人

佐倉病院整形外科の歴史

1991年(平成3年)の佐倉病院開院とともに、佐倉病院整形外科の歴史もスタートしました。初代の整形外科部長には、大森病院整形外科助教授であった古府照男先生が赴任されました。開院当初は、医局員が古府先生を含め4人しかおらず、また、すべてが一からのスタートであり、相当の苦労があったと伺っております。そんな佐倉病院整形外科も古府先生の陣頭指揮のもと、年々医局員数や診療実績を伸ばし、1998年(平成10年)には古府先生が佐倉病院整形外科の初代教授に就任されました。その後2010年(平成22年)に私中川晃一(平成2年千葉大卒)が准教授として、青木保親先生(平成6年千葉大卒)と中島新先生(平成7年千葉大卒)がそれぞれ講師として赴任いたしました。一緒に仕事をしていく中で、いつしか東邦大学、千葉大学という垣根は消え、佐倉病院整形外科としてお互いの足りないところを補完し合う‘one team’としてまとまりました。2012年(平成24年)には私が教授に昇任させていただき、青木保親先生と中島新先生がそれぞれ准教授に就任いたしました。2013年(平成25年)に古府照男教授が退任されて以降は、私中川が診療部長を引き継ぎ、現在に至っております。開院当初4人だった医局員は2019年12



2012年1月 中川晃一 教授就任祝賀会。当講座の名誉教授である古府照男先生と大森病院整形外科の名誉教授である勝呂徹先生を交えて、医局員集合写真。



2019年11月 医局員集合写真。外来にて。

月現在、11名が佐倉病院に所属、5名が関連病院で研修中となっており、地域に根差し、かつ世界に発信する大学病院として、更なる発展を目指しています。

患者満足度の高い最先端の医療を提供

高齢化社会において、外傷、骨・関節疾患、脊椎・脊髄疾患など運動器疾患を幅広く扱う整形外科に対するニーズは益々高まっています。当講座では、特にスポーツ整形外科、脊椎外科、リウマチ・関節外科を得意とし、大学病院・高次機能病院の特色を生かした専門的チーム治療を行い、患者満足度の高い最先端の医療を提供しています。また、2012年（平成24年）1月には運動器低侵襲治療センターが併設され、手術侵襲が小さく、早期機能回復を目指した治療法にも積極的に取り組んでいます。

また、地域連携の向上にも力を入れております。当講座では、地域病診連携体制の構築を強化するため研究会などを定期的に開催しています。専門的な知識・技術を習得するのみでなく、地域医療との連携を図りながら、「顔の見える病診連携」を実践しています。

当講座で特に力を入れているのは若手医師の教育です。当講座には千葉大学出身の医師が多いこともあり、千葉大学関連の県内の主要施設との人的交流も盛んで、若手医師が研修初期に必要な外傷治療に十分な経験を積めるようなプログラムを用意しています。希望者は三次救急病院で研修するプログラムもあり、交通事故や転落事故などの重度

の外傷に対しても経験を積むことができるようになっていきます。

研究

当講座では専門領域ごとのグループで研究テーマを持ち、多くの学会で発表・論文作成を行っています。研究面では、臨床研究だけでなく基礎研究にも力を入れており、スタッフが常時、科学研究費などの競争的資金を獲得して研究をサポートしています。主要な研究テーマは、膝スポーツ外傷、関節軟骨再生、関節リウマチをはじめとする関節炎疾患、脊椎脊髄疾患、などとなっています。希望者は教室に所属しながら学位取得や留学（国内、海外）も可能な体制が整備されています。2019年12月現在、1名が千葉大学、1名が東邦大学の大学院に所属し、自らが希望する整形外科の研究テーマで基礎研究を行っています。

おわりに

整形外科科学講座（佐倉）はまだ発展途上ですが、少ない医局員全員が‘one team’として一体感を持って診療、研究にあたっています。地域に根差し、世界に発信する大学医局を目標に、「顔の見える」病診連携の実践と、患者満足度の高い最先端の医療を提供することを目指しています。今後とも、ご指導のほどよろしくお願いたします。

（中川晃一）

DOI : 10.14994/tohoigaku.2019-057